



創立30周年を迎えて

校長 猪狩 一彦

本校が宮城県立迫養護学校として独立開校したのは平成2年で、今年創立30周年の記念すべき年を迎えました。また、金成養護学校の迫分教室・迫分校時代を含めて考えると40年間の歩みを重ねてきたことになります。

この間、宮城県当局をはじめとする各関係機関、とりわけ登米市内の教育・福祉・医療・労働等の皆様方のご理解ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

また、歴代の校長先生をはじめ多くの教職員の皆様の様々な教育実践、さらにその時々において学校を支えてくださった保護者や同窓生の皆様方に対し、心より敬意を表します。

開校当時は小・中学部の2学部（小・中あわせて児童生徒37名）で発足しました。平成6年には高等部が新設され、その翌年に高等部校舎が落成しました。社会との接点として、自立と社会参加を目指した高等部の設置に伴い、児童生徒数は増加し、今年度は学校全体で80名が在籍しています。高等部の卒業生は現在まで286名を数え、地域社会の個々に応じた進路先で元気に生活しています。また、高等部校舎落成と併せて、高等部ホールにプラネタリウムが設置されました。県内唯一の学校内プラネタリウム施設として、本校児童生徒の学習以外にも地域の子供会、老人会、PTA、近隣の学校等にも開放し、特別支援学校で学ぶ子供たちの姿に触れていただく理解啓発にも寄与しております。

さて、本校は開校以来「児童生徒一人一人の発達段階や能力・特性に応じた教育を行うことにより、心豊かでたくましい児童生徒の育成を目指す」を教育目標に掲げ、近年は教育目標の具現化として「安心安全な教育環境の保障」「個別の指導計画に基づいた授業実践」「特別支援教育のセンター的機能としての地域貢献」を経営方針として教育活動を行っております。特に地域と連携した支援体制の確立を目指し、学校生活のみならず家庭生活や地域での生活も含め、長期的な支援として地域支援コーディネーターを中心としたセンター的機能では、小・中学校等への訪問や来校による相談件数の増加など、各関係機関とのネットワーク構築にも現れています。また、教育環境整備も進めており、とりわけICTを活用した学習活動を推進しています。特に今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策で、リモート授業への対応に向けたICT機器・通信ネットワークの整備を進めています。

最後になりますが、今年度はコロナウイルスの影響で4月は臨時休業で始まりました。ようやく6月から学校が再開しましたが、運動会等の学校行事はやむを得ず一部中止や延期としました。このような状況下ですが、何とか30周年記念事業遂行に至りました。これまで本校の発展にご尽力された関係者及び地域の皆様、温かなご支援とご協力をいただきましたPTA並びに同窓会の皆様、そして教育に情熱を注がれた歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様に厚く御礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。